

金剛石の最有名なり且高價なるものハ。印
度のモゴル國帝所持の品ナリ。是ハ天文十九
年。印度のゴルコンダといふ地より獲る者ニ
シテ。重さ二百七十九萬カ半。我十八年
九分許 時
大ニ雞卵の半ニ似テ。是を琢ハニシテ。時
ハ。九百萬カ六十二カ
三分許 云。或ハ商人此
價を一千百七十二萬三千二百七十八フランク
九百七十五万八十と定めり。モゴル國滅亡の後。

誰が手に落ちり。詳ナリ。

オーストリア帝の所持の金剛石ハ。重さ百三十九
萬カ及三カカ
三分許 價二百六十万八千三百三十
五フランク三十七万六千
二百五十兩許 ナリ。

又オロシヤ帝の宝库ニ珍藏する金剛石ハ。大ニ
鳩の卵の如ク。重さ百九十三萬カ十三カ
三分許 此
金剛石。初メハ印度のシリガンといふ地ニ在
る婆羅門宗の寺院の佛像の眼中ニ藏め

あましをフランス國より印度に遣ち置
けし一人の歩兵。不圖惡心を起し。仏眼を
穿ち取て。何國ともあく亡命せり。其後或る
船主を五万フランク七千五百兩許に買ひ取りて。
ヨードン國人某に二十万フランク四万五千兩許を賣
渡し。此ヨードン人再びギリシヤ國の一富商に
之を賣し復莫大の利を得り。終に安永元
年の頃。オロシヤ國の女王カタリナ第二。彼ギリ
シヤの商人より之れを買取。現金二百五十万
フランク三十七万五千兩許を以て。尚其後此商人一生
に十萬フランク一万五千兩許を給し。此金
剛石今に至るまでオロシヤ帝の宝物なりと
云ふ

○新銀并にアリユミニウムと名くる金属
の説

西洋より銀時計の殻。小刀の殻。其外日用

の器を作る。銅鍍と外觀美なり。錫鉛ハ
柔く損じ易き故。種々の調合金属を用
いて銀の代りたり。其方を名け新銀と云
ふ。又アルゼンタシム云ふ。就中其良方と称
するものあり。

銅八分 ^{トタン} 亜鉛五分 ニッケル三分 此三味

を調合しし者。其色精淨の白銀に及ぶ。

大抵西洋諸國通用の銀錢は此ニッケルといふ金

属和産品也。其色銅鉄の如く。其堅きも鉄に

同く。火に遇て鉄より燐がくといふ。

銅と合し。燐燐を入る。燐はききハきやを

燐解するなり。

アメリカ合衆國。第一ペーリニ國等の錢。

ニッケルと銅を合せ。セント錢なり。但し銅

の量過多故。色赤を帯び銀に似ず。

然るに近來々アルミニウムと名くる金属を以
て諸の細貨^{ミモノ}を造る。其色少しも銀に異ならず
無く。光沢あましく、^{サビ}錆を生ぜることなく。又此
アルミニウムは銅を合すれば、其色殆ど純金の如
く。亦細貨^{ミモノ}を造るより益し。元來アル
ミニウムはアルミナの元質よりてアルミナと名
粘土^{ネツチ}の純精なるものなり。只粘土の如く、^{タヤスク}容易に製するに至るは、
土類石品の内アルミナを含むもの甚多し。故に
世界中アルミナ有らざるの地無し。只アルミナを
分析し、アルミニウムを製するの費少く、故
に。方今アルミニウムの價頗る貴し。後世化学家
の發明によりて、容易に製するに至るは、
萬國共々アルミニウムを用ひる。銅鉄の用半
廢するに至るべし。

化学家方今アルミニウムを製するの方アル
ミナを塩酸^{トカ}に溶し、コロールアルミニウムと

この物を製し。

古名塩 酸礬土

此はコロルアミニウム

とカリウム。或はナトリウムを合し。

ルツネ

入と輝きときハ。アミニウムおのづから

銀色の塊とあり。只はカリウム或ハナ

トリウムの價廉なり。依てアミニウム

亦得易なり。カリウムを布得沙中の

元質。ナトリウムと蘇中^{ソウダ}の元質なり。

西洋雑誌 毎月出版

定價ハ紙数の多少

に依て増減いす。

四方の諸君子に告げます。此雑誌出版の意

ハ。西洋諸國月々出版マガゼイン^{マガゼイン}の新聞紙の如く。

廣く天下の新説を集めて。耳目を新しむ

が為なれば。諸学科ハ勿論。百工の技藝も至

るまで。世の益とありべき事に譯説。宜く加入を

べきりのあふ。各情をく寄贈しむ。

日本橋四日市

西洋

毎月刊行 卷二

西洋雑誌

江戸開物社

西洋雜誌卷二

楊江寧人集刻

○オランダ國王の世系

此書卷首より如く各國王公の世系并に
盛衰の略を一卷に一國の概を収め。但し
オランダ。フランス。イギリスの三ヶ國は事蹟を
西洋事情友人福澤諭吉著の略見し。アメリ
カ合衆國の略史ハ。同書并に海國圖志。聯

邦志略。ワシントン軍記等。既に板行の書多
くれば。これを略し。毎卷其系譜の
筆ぐ。近日西洋王代一覽といふ書刊行
べし。看者ゆゑを待て参考を備ふべし。

井ルム第一王

父井ルムオ六の代までハ。オラニエ公
の爵し。和蘭合衆十七州の

長より。いさぐ王位に升るものなり。此王

安永元年に在り。文化三年父の位を

嗣ぎて。井ルムオ七と号し。フランス帝ナポ

レオン戦争の時。軍功あり。依り。文化

十二年諸國會盟の後。爵を進み。和蘭

國王と号す。改めて井ルム第一世と号し。天

保十一年位を譲り。弘化元年没し。

寛政四年生。天保十一年即位。

井ルムオ二王

嘉永二年没

妃アンナ。ホウロウナ

オロシヤ帝。ホウルオ一の女

井ルムオ三王

副名アレキサンドル。ポウル、フレデリキ、ロデウイキ 文化十四年

生。嘉永二年即位。すふち今れ和榮王よりオランエ、ナサウのプリンス爵、リユクセムブルグの大公爵、リムブルグ大公爵を兼ね

妃ソヒヤ

ウルトムブルグ王井ルムの女

天保十年オランダに嫁す

井ルムフレデリキ、ヘンデリキ

文政三年生。リウテナント、アドミラルトに任じ。リ

キセムブルグ國の夏務を摂理す

夫人

アメリカ

サクセン空イマル大公の女

女

井ルム大マリヤ、ソヒヤ、ロササ

文政七年生。天保十三年サクセン空イマル、エイセナク大公カール、アレキサンドル

子嫁を

世子

井ルム、ニコラース

天保十一年生。今リウテナント

アドミラル、リウテナントセチラル

騎軍監督を兼ね

井ルム、アレキサンドル

嘉永四年生。グレナヂール
及マールゲル隊の第二リウ

テナントあり

井ルム、フレデリキ、カール

寛政九年生。陸軍元帥

子。プロイス國皇

ストハーレンの歩軍レジメント第二隊將を

兼ね

夫人

ロウ井サ

プロイスの先王フレデリキ、井ルム
オエの女あり

女
ブリ、アテナ

文化七年生。プロイスの公子
フレデリキ、アルベルトを嫁を

女
口ウ井サ
文政十一年生 嘉永三年ズエーデン
國王カールルオ十五に嫁ぐ
女
アリヤ
天保十二年生

○兵士食量の定則
和蘭と兵士の毎日分ち給ふ食料の
常量左の如し。

但し麴包の代りにビスコイトを食する
ときハ一日は半斤 百三十
なり

牛肉 生より一斤四分の一 半月
我六十七分

同 塩漬 目方同断 一ヶ月以内
七日

猪肉 燻しより
一斤の八分の一
我三十三分
同 塩漬 目方同断 四日

同 塩漬 目方同断 四日

塩 一斤の六十分一ツ 我四奴 毎日

米 一斤の十六分一ツ 我十七 半月

但し生の牛肉は添く渡り

精^{シラ}げ^ル 燕^{カラス}麦^{キヤ} 月方同断 七日

但し牛の塩漬は同日は渡り

青^{エド}き^豆 一斤の十一分一ツ 我廿四 八日

但し豚の肉は同日は渡り

我五合五勺を廿人分るなり

右の外

酢 一カンの廿五分一 五合五勺と廿五人

青菜 胡椒 炭薪 蠟燭 サボシ

等を渡り

エイド、メモアルといふ書 フランス 人著述 もも。 右の外尚

左の品をも渡りべしと云へ

葱 子ギ 一人ニ 二本ツ 一人ノ内 十三日或ハ十四日

干鰯

目方 一斤の八分一ツ

一ヶ月二日

酪

又ハ

目方

我八分三ツ

毎日

乾酪

目方

我五合余

同

芥子

目方

我五合余

同

葡萄酒

半カン

我二合八分一ツ

同

但し上等士官の

半カン

同

飲水

三カン

我二升一合余

同

馬鈴薯

新あれハ

一ツプ、六三合 我九合

古くれハ

二ツプ、一合 我一升

同

甚古くれハ

二ツプ、三合 我一升

蕪菁根

又ハ 胡蘿蔔根

〇ツプ、八五七分

我四合

菜漬

一斤の四分一ツ

六十七

一ヶ月九日

一ヶ月五日

又英吉利人ペレイラの書。日耳曼列國連合
隊の兵士に給する食量を載せしむ。左の如し

麵包 一斤。二 我二百七十一

肉并に脂肪合。斤一六 我四十三

馬鈴薯并に豌豆蚕豆 合。斤六十 我百六

青菜。葱の類合。斤一七五 我四十

ビール 一カンの四分一 我一合

焼酒 一カンの十分一 我二合

右の外各國食料の渡し方。少しの異同は
あれども。大抵推して知るべし。但し土地の氣
候と産物の多少に依る。自然に異同無きま
能う。極北寒國より多く肉を食ふれば
寒に堪へざり。人身虚弱となり。赤道に近き
熱國より肉を過食すれば。必ば悪き病を發
す。故に寒國よりハ專ら肉を食ふべく。熱國

てハ穀菜蔬の類を宜しとす。只日本唐
國。エウロパ中部の諸國。北アメリカ合衆國等
の如き。寒暖中和の地ニ於てハ穀肉共ニ併
せ食し可なり

麩包パン小麦粉の上品ありのより製し
をよりよく。凶年或は他の故障ありて。小
麦粉拂底なるときハ燕麥。大麥。米。蕎麥等
の粉を交へて製する事もある。何れも

但し此點金術ハ漢土より。丹砂可化黄金
と云ひ方士の類より。固モトり真
其法有るハあり。此方の俗説。西洋
人ハ日本の銅を買て黄金を製するあり
云ふ。亦是等の誤を傳へるなりべし。
扱後世アルの二字を去りて。キミミ又
ケミミ。又キミカ。又ミミヤ。又キミス
トリミと稱は。是ハ昔の如き妄誕の術